

学生にとってのTグループの意味

文 珠 紀久野（鹿児島純心女子短大講師）

大学生となる18、9歳の女子学生は、青年期の真只中にいる。現代に生きる若者は、非常に物質的に豊かで恵まれた中で生活している（松下1981、井原1989、藤竹1989）。いつでも好きな物が手に入り、今手元にお金が無くてもカードを利用すれば『欲しい時が買い時』とばかりに自分の欲望を簡単に満たすことができる。

また、某大学学長が新生入生に向け「大学はレジャー・ランドではない」と言わざるを得ないくらいレジャーランド化した大学が多くなり、学問に真剣に向きあっていく情熱を欠いた学生が多くなってきた。大学生活の中で獲得できる多くの自由時間を満喫し、学業よりも遊びやアルバイトに精を出す大学生は少ない。

一見すると青春を謳歌し、楽しい大学生を送っているかのように見える。ところが、現代は価値観の多様化にともない、1人1人の生き方は1人1人が自発的に、創造的につくっていかざるをえないという大変な作業が、個々人に課せられているともいえる。

個人に自由が十分与えられている反面、その自由をどのように活用し、自己を確立していくかは個人の側の問題である。

すなわち、自分が自分に対して責任を持つことが求められ、その分孤独感も強く感じざるを得なくなってくる。

その中で、自分は一体誰で、何がしたいのか、何をしようとしているのか、今何を感じているのか、他者とどう関わっていくのか等々といったことが、嫌でも考えねばならなくなっている。

大学生は『青年期』とよばれる発達段階にいる。青年期の特徴に関しては様々な研究者が論を展開しているが、それらをまとめてみると以下のようになると思われる（福井1980、笠原・山田1981、笠原1984、乾1986、木下1989）。

1. 急速な身体成熟と第2次性徴のあらわれ。それに伴って、自己の身体への過敏性。
2. 異性への関心の高まり
3. 強い自意識過剰、自己の内面への関心、自己評価の不安定さと劣等感
4. 他人の目へのとらわれ
5. 親への反抗と依存、その間での葛藤

これまで作り上げてきた自分と向き合い、自己点検をはかり、新しい自己へ変容していくことが青年期の特徴の1つであるといえる。

ところが簡単には新しい自分は見つからないし、古い今までの自分には愛着があり、捨てるのはつらい。その葛藤の中で出口を求めて反社会的行動へ走ったり、精神的な問題を呈したりする者もいる。しかし大多数の若者は、極端に走らないまでも、反社会的行動と精神的ひきこもりの間をゆれ動いているのが現状ではないだろうか。

そういう中で、同性・異性の友人と関ったり、親子関係の再点検をはかったりという他者との相互作用の中で、少しずつ自己確立が行われる。

ところが、大学生の対人関係は、つかず離れず、明るく、軽くといわれるように、非常に希薄なものとなってきている。

友人になって深く関わると自分も傷つくから適当につき合うという学生が少なくない(森1979)。それでいて、真友が欲しいと強く願いつつ自分の殻を出ようとしない。

本当の自分の姿が分からず、本物でない私がいづのまにか周囲に流され日々が過ぎてゆくという悩みも心の奥深くかかえている。

なんとなく友人になり、なんとなくいつも一緒にいて、なんとなくおしゃべりをして過ぎていくのが最近の大学生の友人関係のようである。

薄い関わりの中では、自己を見出すこと、自己を創っていくこと、自己実現は仲々進展しない。

このような状況にいる学生に対して、Tグループを行なうことの意味を、Tグループに参加したメンバーの状況をもとに検討し、学生達の発達と自己実現に対してどのような援助が可能であるのかを探究することを目的としている。

1 Tグループ合宿の概要

本稿で報告するTグループ合宿の概要は以下の通りである。

- * 時期：1981年11月29日～12月5日（5泊6日）
- * 場所：三重県 池の浦（海辺の静かな所）
- * 対象：1年生 122名
- * スタッフ：学内スタッフ9人 学外スタッフ10名 事務局2人 看護婦1人

* グループ構成：出身校・フィールドワークでのグループ・居室グループなどを考慮し日常あまり共に行動することの少ない学生で11ないし12名で構成し、11グループを編成。トレーナーは各グループに1名ないし2名である（表1参照）。

表1 グループ構成

グループ名	学 生 数	学内スタッフ	学外スタッフ
A	11		1
B	11		1
C	11	1	1
D	11	1	1
E	11	1	1
F	11	1	1
G	12	1	1
H	11	1	1
I	11	1	1
J	11	1	1
K	11	1	1

* スタッフミーティング

◦ プレスタッフミーティング

Tグループ合宿開始1日前よりスタッフ全員でプレスタッフミーティングをもった。学生の入学以来の学習状況・学習内容・学生達の動向に関して情報交換を行った。また、合宿全体のねらい作成とその内容に関する共有化、ふりかえり用紙作成、メンバーのグルーピング、トレーナーの組み合わせ、合宿初日のスケジュール作成、会場準備などを行った。このミーティングは合宿全体がスムーズに運営されるためであり、スタッフ同士が相互に知り合いチーム作りをする場でもあった。

◦ 一日のふりかえりのためのスタッフミーティング

毎日全スケジュール終了後、各グループの状況報告・全体会のふりかえり・学生の健康面に関する情報交換とともに、次の日のスケジュールを決定するための話し合いを全スタッフで行った。このスケジュールは翌朝学生に知らせる。このような方法をとったのは、学生の状況・グループ状況に対し、より適切なプログラムを作る為である。

* ふりかえり用紙（付表参照）

Tグループの各セッション終了時毎に、グループや自分について気づいたことを記録する用紙である。記入後学生はトレーナーへ提出し、Iのスケール（自由度・興味・グループの雰囲気）とIV・Vの影響関係をまとめ、学生の学習材料の1つとしてTグループに返却される。

*ねらい

私が私のグループメンバーの一人一人とかかわりを深める。

- 今このグループの中での自分の気持ち、態度、行動、価値観などに気づく。
- それらがグループの他のメンバーの気持ち、態度、行動およびグループのあり方にどのような影響を与えているかに気づく。
- また自分がグループおよびグループのメンバーからどのような影響を受けているかに気づく。
- 互いに応答しあう。
- グループとしての成長にとりくむ。

*全体のプログラム

毎回のスタッフミーティングをくり返す中で創られ、実施された全日程を表2に示す。

- Tグループセッション 16回
- 全体会 5回
- 夜のつどい 5回

*フォロー・アップ

Tグループ合宿終了後の12月9・10日の両日を用い、学内で行った。

ねらい：この合宿の体験の意味を各自で明確化する。

手続：1. T₁～T₁₆を個人のふりかえり用紙、集計用紙をもとに内容プロセスともていねいに書き出し印刷する。

2. 個人レポートを書く。

「Tグループ体験の意味」

Tグループとは何かの概念化の為の講義が行われた。——資料「小集団の社会学」青井和夫 東大出版

2年生になってから、個人面接を1人約1時間ずつ行った。その時に「自分への手紙」とレポート返却。

*トレーナー間での話し合い

プレスタッフミーティングでトレーナーの組み合わせが決定した後話し合いをもった。

初回を大切にすること。メンバー1人1人を大切にし、大切にされていく実感がかめれば幸いである。不必要な不安には適時対処する。2人とも関西方面出身なので言葉のニュアンスには十分留意する。お互いにTグループセッションの場で真剣に関わっていくことなどを話し合った。

また両者のこれまでのTグループ合宿体験・Tグループに関するトレーニングの有無・自己認知している自己像・Tグループに関する考えなども話し合った。

表2 全日日程表

11月30日(月)	12月1日(火)	12月2日(水)	12月3日(木)	12月4日(金)	12月5日(土)
7:30	朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい
8:00	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
9:00	T ₃	T ₇	T ₁₀	T ₁₄	全体会5 「私のこれから」
10:00					
11:00	T ₄	T ₈	T ₁₁	全体会4 「目かくし探険」	閉会・アンケート
12:00					
1:00	昼食	昼食	昼食	ペアで昼食と わかちあい	
2:00	自由	自由	自由	T ₁₅	
3:00					
4:00	全体会2「バイインタビュー」	全体会3			
5:00	T ₅	「ノンバーバル」	T ₁₂	T ₁₆	
6:00					
7:00	夕食	夕食	夕食	夕食	
8:00	T ₆	T ₉	T ₁₃	グループのふりかえり	
9:00	夜のつどい	夜のつどい	夜のつどい	夜のつどい	
10:00					
11:00					
11:30					

2 使用したデータ^註

1. Tグループセッション終了毎の記録。

各セッション終了後すぐその回の記録（グループ状況・メンバーの状況など）を取り、かつ自分の感じたことや気づいたことをメモしていたものを用いた。

2. テープ逐語録

各セッションは全てテープ録音した。録音テープはメンバーの学習の材料とし、グループ室に常時置いておかれ、グループとメンバーの状況を知るためのものとして、そのTグループメンバーは自由に聞くことができた。T₁・T₆・T₇・T₈・T₁₀・T₁₁・T₁₃の7回のTグループセッションを逐語録におこし、データとして用いた。

3. ふりかえり用紙・集計用紙

4. Tグループ合宿終了直後のアンケート

5. フォロー・アップで作成した学生からみたTグループの歴史

6. 学生のレポート

7. 個人面接

メンバーとトレーナーのプライバシー保護の為、学生をA～Kで男性トレーナーをNトレーナー、筆者をMトレーナーで表す。

3 Tグループセッションの経過

T₁ Mトレーナーから「それでは先程提示されたねらいを達成するためにTグループを始めます。このセッションはテープにとります。この部屋で聞くことにします。この部屋から外に持ち出さない。このTグループは時間——今は5:45まで——とこの部屋ですということ、13人のメンバーだけが決められています」と開始の発言がある。しばらく沈黙（1分30秒）後Dから「この時間は何をなさいますという学校の方からは無いんですか」と質問がある。続いてBから「これからの時間何をするかは私達で決める訳ですか?」と質問。すぐにBは「何かしませんか、黙っていても仕方ないから」と提案。すぐには皆に受け入れられず、Cが自己紹介しようと提案し、自分が言ったからというので、Cから始める。Cから時計まわりに一巡する。その中で合宿への期待、不安、自分としてのねらい——他の人を知りたい——が表明される。Nトレーナーは「Nです。大阪弁が出てきてわからなかったら聞いて下さい」Mトレーナーは「皆を知っている訳ではない。いっしょに（色々）出来たらいいと期待してここへきました」と言う。FがNトレーナーのことを知りたいと言う。「先生か?」という問いに「先生もしています」と答える。

すぐに話題が変わり、全体会で書いた旗の分かちあいをしようとIから提案。しばらく沈黙。Kが「お金と書いた人？」と聞くと手をあげる人もいる。しかしみんなは旗を手にもったまま見せようかやめようかというあいまいな形である。またIが、「言いたい人から言おう」と提案。しかし受け入れられない。IはMトレーナーに「合宿は昨年と同じ？」ときく。「同じというのは？」I：「いつもこんな風ですか？」「同じところもあるし、違うところもある」

Jから「得意な所を言おう」という提案。

	A	B	
C	D	E	
F	G	H	
I	J	K	

T₂ セッションが開始されるとすぐMトレーナーが『ふりかえり用紙』をグループのまん中におく。すぐDが1枚ずつ配ろうとする。Nトレーナーが「このふりかえり用紙は今ここでは見ません。全セッションが終わるまで、いつでもこのグループの人がみれるようにまとめておいておきます」と説明。すぐにKが「トレーナーもふりかえりをするのか？私達だけというのは不公平だ。書いたのならいっしょにここへ出せ」とMトレーナーに文句を言う。Mトレーナーが「そう言うのはなぜ？」ときくとKとともにCも一緒になって怒り出す。Nトレーナーが「私達は役割上今は出さない。全セッション終了後にみせよう」と約束する。K・C不満気ながら一応納得。

Jから「旗」の続きを見ようと提案、しかし受け容れられずKが「結婚」について話をしようとJの意志をみる。NトレーナーからJに「結婚の話をするのでいいんですか」と聞かれるとJ「何をしたいかわからない」と答える。その間I、AはチラチラとMトレーナーの方をみている。「ともかく何かしよう」ということで、G・H・Kが動き出す。Fが「皆が賛成だから」という。Nトレーナーが「はたしてそうか？」と聞くと、B・I・Dは簡単に「賛成」という。そこで次回は『雑談』をすることになる。「先生は？」と聞くので、Mトレーナーは「雑談で何をするの？」と聞くと「自分達の気持ちを言いたいから」と答え、Nトレーナーは「みんながやるというのなら」と伝える。

メンバー	対	T ₁
	↓	
K	G	H
A	B	D
E	F	I
	①	

T₃ Bの提案で「オハヨウ」を言う。Kから口火が切られ雑談という名の討論会のセッション。

第一テーマ「女と職場」。Kは強く「女は職場では損な役割」ということを強く主張。その中でJはモジモジし顔を赤らめたりしている。Cは「女に甘えがあるのが問題」と反論する。

第二テーマ「家庭か職場か」。結婚後どうするかということをめぐるKは家庭に入ることが大事と主張。その中でF・EがKに質問され、オズオズと「家庭に入る」ことを言う。仲々しゃべり出せない。Jに対しAとIから援助があり「あなたの言いたいことは……でしょう」と明確化する。誰が誰にしゃべっているのかが明確でなく、違う意見が出されるとKに追求されるというパターンが出てくる。また話題がくるくる変わり、今何が問題になっているのかが不明のまま進む。

第三テーマ「自分はどうしたいか」Kからみんなは結婚後どうしたいのかと聞かれ、すぐB・F・Iが反応する。

第四テーマ「フィールド・ワークについて」Cが「10年くらいは結婚しない。それは、フィールド・ワークで障害児をみているから」というとGが「みんなもし障害児が生まれたらどうする?」と聞き、Kがそれを受けて話し出す。

トレーナー2人は介入なし。

一般論か自分に関したことか不明の話が多い。「自分のことだけ言えば良い」「しゃべることさえすればなんとかなる」というノーム。

全体は沈んだ感じである。

この中で、サブ・グループが誕生。K中心の一群とC中心のグループ。

K・リーダー
K G H B
J C E
A D F I

T₄ Gから口火が切られ「T₃の話題を続けよう」と言う。CがKに「T₃のことはもうすんだ?」と聞くと、Kは「もうすんだ」と答える。Gは「皆に聞きたい」と言い、フィールド・ワークの話などする。Nトレーナーから「誰に言っているのか?」と介入。Jが「今何をしているのかわからない。くるくる話題が変わる。困っている」と表明。Gは「もう私の聞きたいことはいい。沈黙していると嫌。話題のある人は言ってほしい」DがMトレーナーに「女性問題についてどう思う」と聞く。Mトレーナーは「もし……ならという形なので私はしゃべりにくい」と言う。

Kが『「障害児にとっての学校教育について」』ということでもみんないい?』と言ってすぐに始めかける。Mトレーナーが「みんなに確かめると言ったが、

本当にしたのか？」と介入。Cが「確認しよう」といい、1人1人反応をする。

「障害児にとっての学校教育」のテーマで話が始まる。KがAに質問をし、Aが話している途中でGが自分の方に話をとってしまう。NトレーナーがAに「どんな気持か？」と聞くと、Aは「別に感じない」という。ところがCとJが「T₃で同じようなことがあり、自分の気持ちが無視されたと思った」と言う。

「今ここで」ということが学習につながるものが、ぼんやりとであってもみえてきた（C・J）人が出てくる。

ノームとして { 関心を示さねばならない。
自分の意見は言わなければならない。

全体の参加度は高い。

足を投げ出してすわる人が出てきた。

K G H D

C J

A B E F I

T₃: Iがかん高い声で口火を切る。

「手続き論」が展開される。賛成・反対の表明のしかた、必ず言わなくてはいけない、それも1人ずつというノームにしばられている。K率いるサブグループはもうめんどくさいなあという感じで乗ってこない。「まるで聴く実習みたいだ」と文句をいう。

次にペアインタビューの話をしようということになり、先ほどのペア同志横にすわろうということで、席の入れかえがある。パワーの強い人は自分の席を動かさず、弱い人が動かされてしまう。

Kから「トレーナーが来ると雰囲気が変わる」と言い、口々に雰囲気が変わるのは、トレーナーとテープの存在が気になることと、学習だと思っただということが次第に明確化されてくる。Gは「言葉使いまで変わる。普段の言葉が使えない」といい、「こんなことでねらいが達成されるのか？」と不満をもらす。

雑談が始まる。KとIがはり切っている。BCDEFJはお義理でつき合っている。Nトレーナーは「雑談をして楽しいですか？」と聞くと、雑談は良いか悪いかという話が始まる。

しゃべらなければならないノームが強まる。輪が少し小さくなった感じがした。Kが強いパワーで出てくるので、C・Jは弱くなってくる。

K・リーダー

K G H B

D I

C J

A E F

T。時間が来て開始される。それ以前から続いていた雑談がそのまま続く。約5分後Nトレーナーからストップの介入。「この雑談をして何がわかったのか？」という問いに対して、Bは「皆のことがわかり深まった」I「話しやすい雰囲気があって雑談がないと次へ進めない。沈黙は緊張を高める」K「皆と仲良くなるために行った」G「雑談中は自分の意見がどんどん言えた」H「雰囲気が柔らいだ。パッといてよかった。意味がない訳ではない」E「はりつめた雰囲気がなくなった」C「表面的なものだった」A「雑談をしていて仲良くなれるのか疑問だった」J「普段と同じ。進歩がない。でも本音をいうためのステップ」D「いつ終わるのか不安だった」と口々に5分間のことについて語る。

Kが「みんなを意図的に話し合いにのせようとしていた」ことをNトレーナーからの指摘で気づく。しかしGは「Kにのせられてはいない」と言う。Nトレーナーから「みんなは慣れ合いが欲しいのか、本当の出会いが欲しいのか」と問われ、重圧からのがれる為に——自己本位——相手を無視していたのではないかということに少し気づく。と共に雑談の時と今この時の話し合いの質の違いに気づいていく。

Hが「自分と違う感じ方をする人に気づいた。怖くて話し出しにくい」と不安を表明する。

Bが「相手のことを知りたいけど、反感を持たれそうで言えない」K「へんな風に思われたくない。でも言ってみないと指摘されない」とフィードバックを求め始める。

不安が表面化することによって、逆に不安が減少。

K G H B I

J E

C D

A F

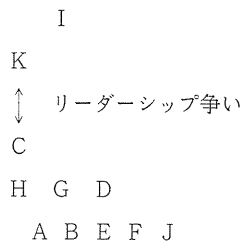
T7。約30分沈黙。MトレーナーからDに「何を感じているの？」と切り出す。Dは「皆が何を感じているのか知りたかった。言い出せなかった。今聞いてみたい」と言ってJを指名。J「誰かが切り出すのを待っていた。甘えてた」H「自分の中にテーマを探してた。でも次第に、他事を考えた」C「Kが切り出すのを期待していた」K「自分は何を感じているのかを考えて、自分の時間の中にいた」G「沈黙を恐がっていたので、なぜなのかを考えようとしていた」

JはKのことにひっかかっていたのか、Kの自分の中にとどまっていたことに対して不満げに「勝手だ」と言う。Kは「皆と自分を比重にかけると自分の方が重かった。Nトレーナーをやっつけたかった」という。

Bが「沈黙の中で、自分の気持ちを調べていた」Eも同じことを言う。し

かしCは「長すぎた」とIは「これまでトレーナーは役割を持っていると思ってた。予想通り今回はMトレーナーが口火を切った」とトレーナーへの反感を明確化する。Mトレーナーは「Dだけがサインを出していたのを読みとって、何かなと思って切り出した。トレーナーとしてではない。皆は自分は有意義に時間を使ったというが、グループを考えていないので悲しい。相手のサインを受けとらないことが悲しい」I「いつもの学校でのMと違うから、役割が与えられていると思ってた」Fが「ストレートに返事が返ってきてうれしい」とフィードバックする。

同じ状況下でも感じ方が違うことが明らかになる。トレーナーへの不満の表面化（トレーナーはメンバーかスタッフか）緊張の中にも1人1人に語りかける。相手の言おうとしていることを明確化しようという動きも出てくる。



T: Cが口火を切り「トレーナーはスタッフミーティングで話し合っって意図を作っているのか」とトレーナーへの攻撃を開始。H・I・Jもいつもの先生と違う。スタッフは皆で打ち合わせているのだろうと不信を現わす。NとMは違うことがわかる。

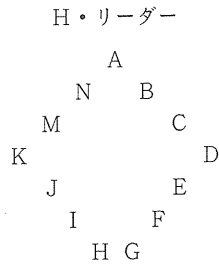
次第にニックネームで互いに呼ぶようになる。

Mトレーナーが「ここではまとまらないとしゃべれない」と指摘すると、メンバーが口々に同じことを感じてたという。そこでHは「まとまらなくてもいいから、とにかく思ったこと、感じたことは口に出そう」ということを提案。

そこでまた、トレーナー不信が出る。Nトレーナーは「ぼくはこの1週だけのつき合い」Mトレーナーは「学校でもつき合えるが、ここのことはここでしたい」と今ここで皆と知りあいたいことを伝えると、トレーナーへの反感は減少。初回と今ではトレーナーの感じが違うという。

FからMトレーナーに女性観を聞きたいと問われ、考えつくままにしゃべる。Fは「答えてもらってうれしい。Mトレーナーのことがわかった」という。

フィードバックの下地作りの回。トレーナー攻撃をすることによって、トレーナーの態度へのフィードバックが行なわれた。トレーナーとのハネムーン期。雰囲気柔らかいで笑いも出る。



T₉ (Aカゼのため欠席)

Fが「もう一度女性論について話をしよう」と口火を切る。C・Hが「したくない」と拒否。

CからNトレーナーに今の全体会の意味を求める。Nトレーナー説明。

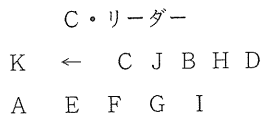
CからKに、Kの作品について説明をもとめる。(盾と槍で自分を守っていることを表現した作品) KはこれまでのTセッション中、盾と槍で自分を守ってきたことをNトレーナーとのやりとりの中から、そしてCの援助で気づく。ところが、途中でIが「ちょっとイイ?」と割りこんで自分のことをしゃべり出す。Gも何が起きているのかわからない。テープを聞こうと言いつ出す。Jが2人に今までのことを説明し、KとN・Cの対決と援助へ戻る。CはKに「意地をはっていて苦しそうにみえる」とフィードバック。Kはわかった、という表情をする。Mトレーナーが「今やさしい顔しているね」とフィードバック。すぐ直後にIがまた「いったい何?」と妨害。

MトレーナーからIに「あなたがしたことは何か?」とIの行動に対して指摘。B、H、Jが「互いによかったと思っていたのに、Iの為にズンッときた」とIへフィードバックする。

KとNとの対決のセッション→グループへの信頼。Cがグループリーダーとして援助者として動いていた。Aの欠席は皆の関心をひいていない。

MトレーナーがAを見舞う。

熱があり、カゼ気味の中でT₉のことを気にしている。Kさんが中心だったとだけ伝え、あとはT₁₀で聞いてみるように示唆。



T₁₀ 朝食後AはMトレーナーに大丈夫だからセッションに出ると報告。

モチベーションが高まっている感じがした。

Iが口火を切るが、それをさえぎってAがT₉の説明を求める。Iを指名。Iはうまく言えないかもしれないけどと言いつつ説明をする。「私がグループの雰囲気をごわしたことに気づいた。それはみんなのことは見ていなかったから」とT₉での自分の介動について一夜考えたことを伝える。「これか

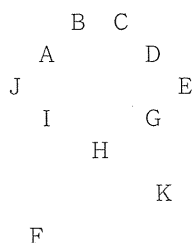
らうつ向いていないで、人の表情をみようと思う」と積極的に行動目標を挙げる。Mトレーナーは「考えてくれたことがうれしい。いっしょにIが気づいていける援助がしたい」というと、Iは「みんなにも指摘してほしい」と頼む。Gも「人の表情をみるのが大切だと思う」と自分をふりかえる。Iは「自分の気づいたことを伝えて、Mトレーナーからまっ正面から答えが返ってきてうれしい」というと、Nトレーナーは「Iがまっ正面からぶつかったからだよ」と支持。

Iから「黙っている人の気持ちを聞きたい」とあり、F「話をしている人がなぜそういうのか考えているから」A「皆の中でしゃべるのが苦手、言わなくてはと思うけど、どうしてもできない。求められると言えるけど」と言い、そういう自分へのフィードバックをKに求める。EはIにすすめられ「一生懸命聞いてはいるんだけど、第一声を出しにくい」Kは「私だって第一声は出しにくいんだ」という。再度Hは「思ったことは言おう」と激励する。

Iは自分が尋ねたことに対し、A、F、Eから返事が返りうれしき一杯。これから援助して話しやすくしてあげたいところ。

JからDに「あなたもしゃべりにくいのでは？」D「意見をまとめるのが苦手。まとめているうちにおいていかれる」

フィードバックがスムーズに行なわれている。規範として皆がしゃべる。許可をもらわないとしゃべりにくい。くつろいだ中で、「今ここで」ということが解かってきたようだ。皆が話に熱中していて、終了時間に気がつかないくらいであった。トレーナーもメンバー扱いされている。

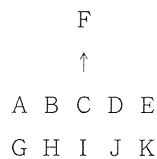


T₁₁ Iから口火を切る。続きが始まる。Bが「私もあまりしゃべらない。人間関係科に入ってから次第にしゃべれなくなった。人の気持ちを考えすぎて」としゃべることによって、人を傷つける怖れを表明。Cも同じ怖れがあるが、思い切ってしゃべると怖くなかった。Kもみんなから色々言われたけど、傷つかなかったとBに怖れないでと励ます。HからFにT₁₀での発言が気になっているということを伝える。Fは「人が何を考えているのか自分の中で考えている」ことに対して、他のメンバーが考えているだけでなく、聞いてみたらと提案し、Fを援助しようとする。しかしFは皆から責められていると感じ始め、受け入れようとしな。そういうFをみて、Aは無理をしているな

あと感じると伝えるが、それではね返してしまう。もどかしい思いで色々な方向から援助するが、Fはさらに固くなってしまう。Nトレーナーの提案で、このことは一応止めFに預けようということになる。

その後沈黙が続き、何をしたらいいのか不明なまま終る。

Kは自分がメンバーから助けられ、自分を発見した喜びをFにも味わってもらいたがるが、Fが受けとらないのでガッカリしている。柔らかい・やさしい口調のことばでコミュニケーションされている。今までしゃべれなかった人が自発的にしゃべっている。T₁₀でのことが支えになっているようだ。グループの中にエネルギーが十分あったのが、ここで急に消失したようなセッション。



T₁₂ 沈黙。自由時間の後、全体にエネルギーが低下。Nトレーナーが口火を切り、みんなの今の気持ちを聞く。眠くてやる気がおこらないことがはっきりする。

Nトレーナーの提案で窓を開け、気分転換をする。体を動かそうということで、Mトレーナーの提案で「Trust circle」をする。皆くつ下をぬいで何をするのかという好奇の表情で説明を聞く。はじめにNトレーナーが中に入る。重くて支えられず倒れると笑い声がおこる。次にM→B→Aと行なう。NトレーナーからFにやってみないかと誘う。F素直に円の中に入る。かなり長くしているうちにFが「気分が悪い」と言って部屋の隅の方に行き、「変なものが見える」と言いうずくまる。MトレーナーがFを抱き、気分を静める。他のメンバーは驚いた表情でみている。MトレーナーとF以外のメンバーだけでセッションを再開。

「Trust circle」はNとMの間で行ってみようという打合せはしていた。(言語レベルではわかりにくいFの為に)

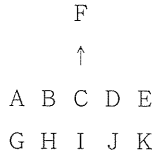
A・Bは気持ちが良いと言っていたが、Fは無表情のまま続けているのが気にかかった。

Fは以前貧血で倒れた(強烈な恐怖体験だった様)時、目の前が黄土色になった。それと同じで恐かったと後で述べる。しかし、ひざに抱いていると小さな赤ん坊の様な感じでMトレーナーに十分甘え切っていた感じがした。

この点について精神科医に相談。

- ・グループの中でFのことを強くとりあげない。
- ・メンバーからの強い攻撃に対してはトレーナーが守る。

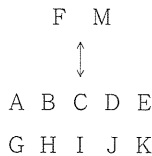
の2点のアドバイスをもらう。



T₁₃ 前T₁₂からの続き。テーマを決めて話そうというHと、不要というBが対立。しかしHは「主婦・女・妻・人間」を順位づけるように皆に要求。特に発言のなかったFに聞く。Fは答えるが皆は納得せず、T₁₁セッションの続きが再開される。しかしその内容はFを責めることが多い。Mトレーナーが介入して、Fの気持ちを聞きたいのか意見を聞きたいのかを明確化する。今はFを責めるつもりはなかったが、結果的にそうってしまったことに皆が気づく。

その中でGが自分の問題に気づき始める。

自分たちの中の援助できる限界に気づき始める。

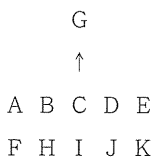


T₁₄ Eが口火を切る。「私は皆にどう見られているのか知りたい」Jがフィードバックしている時Gが、「ルールに乗せられている感じ、感情の高ぶりのないグループ」と不満を言う。Cが「感情を高ぶらせるのが学習とはいえない」とここでの学習の在り方をGにKも共に説明する。Kは馬のたとえを出す。

「ここで学んだことは多い」とKが改めてここでの学習の意味を明確にする。KとGのやりとりをみている中で、A、Bも自分の中のモヤモヤがはっきりしたと喜ぶ。

再度Eが自分へのフィードバックを求める。Aは「印象がうすい。柔らかいけどグループの中にいない感じがする」と指摘。Eの顔から笑顔が消える。

1人の困っている人を互いに助けようという雰囲気が満ちている。メンバー1人1人が自由に動いている。スタッフの介入に対する抵抗がない。フィードバックも怖れなしに自由にことばが出てきている。



T₁₅ 沈黙。JからEに「さっきのし残しはない？」と聞くと、もういいとのこと。MトレーナーにIが「T₁₃のことについて聞きたい」という。Iに「自分が混乱していて、グループがみえていなかった。それでみんなを困らせた」というとI納得。

Cは「めかくし探険」の意味を問う。そのことから全体会のふりかえりが始まり、ペアでどんなことを感じ話したかを分かち合う。Cは自分が肩ひじはって、みんなの期待「よい時に大事なことをいう人」に沿おうと無理していたことを認め感動。

HはペアのAからやさしい扱いをしてもらったと感動して涙。分かちあいつつ、Fは「人を理解するのは感じるのが基本だということがわかった」とみんなに伝え、受け入れられる。

あったかいやさしい雰囲気。場への信頼が強まる。

C
↑
A B D E F
G H I J K

T₁₆ めかくし探険の分かち合いの続き。

Bが自分へのフィードバックを求める。Jが「高校時代のBと違う。積極的だったのに」という。Bはうなづいている。Gは「空白な感じがする」と伝える。Bは「自分は今やる気がなく落ちこんでいる。皆に何とかしてほしい」と訴える。Nトレーナーからの指摘で、その中にある自分の甘えに気づく。でも納得できない顔つきのJがいる。

最後に一言ずつ今の気持ちを述べて、13人がお互いに支えあっていることを確認し、良かった。／ 思いで涙。

B
↑
全 員

最後に学生の側から見たTグループの歴史を添付したい。

<T₁>

沈黙



自己紹介



先生への質問 — 拒否される —



全体会でつくった旗のわかちあい

(価値あるものについて…全員 指名制 → 文●先生の疑問
とくいなこと

文●、西●先生への反発 ←

先生が何もしてくれない



不安

合宿への期待 (何かを得たい!!)

<T₂> 集計用紙をみんなの前においた

先生の立場について疑問?



前回の文珠先生の態度を指摘 — 明確に答えてくれない

・文●先生に対する
反感増長



何をやるかを決める “雑談をしよう”

・西●先生に期待

テーマ「女性について」に決定

<T₃>

「女性について」の討論会

- ・女性の給料について
- ・家庭か職場か
- ・将来について



「障害児について」

フィールドワーク etc.

「誰れにむかって言っているのか」を指摘される
話しにくい……

- ・フィードバックがはじまる
- ・テーマの変化

norm — 誰に言っているかはっきりさせる

話す時「言っている?」を言う

- ・サブグループができる

<T₄>

「障害児について」話し合う

- ・障害児を生むか生まないか
- ・軽度障害児の自立

norm

みんなが1度は発言しなくてはならない



西●先生の介入

→ 雰囲気が固くなる

前の意見とのつながりを指摘



「意見を置きざりにされた」ことについて考える — 意見について賛否を確認する



みんなが意志表示をすることに決定

一応の解決

<T₅>

意見に対する反応をとる手続きについて



ペアインタビューの分かちあい

雰囲気が固すぎるのではないか?



もっと楽しくやろう

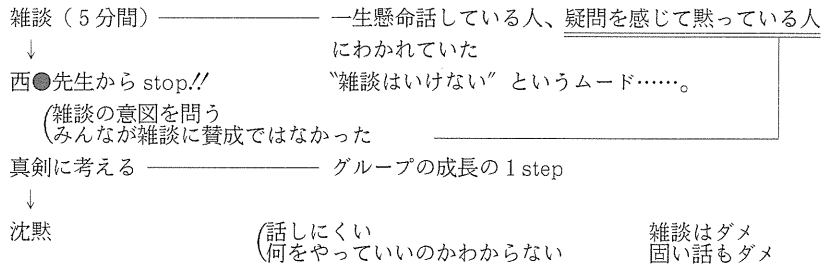


本当の? 雑談 (10分間)

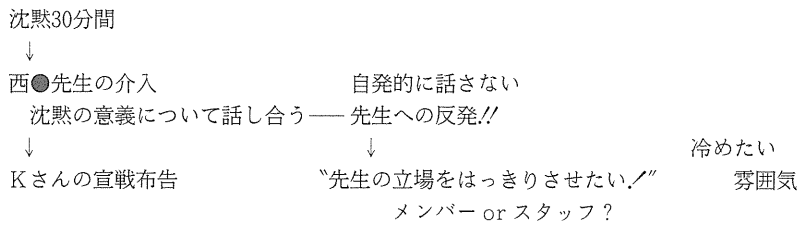
先生を無視 (関わりたくない)

無理していた雰囲気

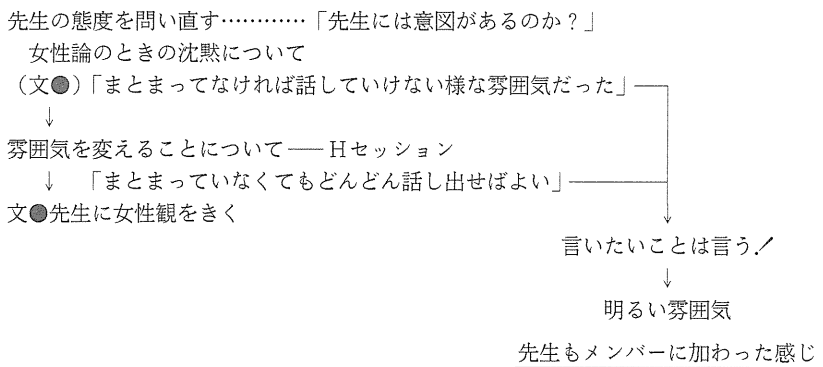
<T₆>



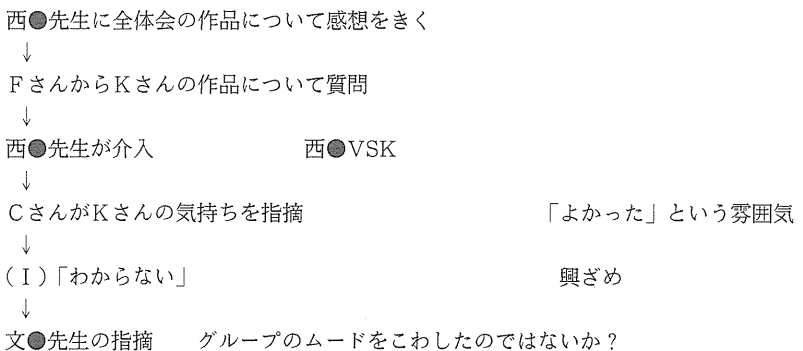
<T₇>



<T₈>



<T₉> A入院



<T₁₀>

Aさんが前回の説明を請う



Iさんの応答（プロセスをきちんと説明する）
これからは人の表情に気をつける
自分の言いたいことを言える雰囲気

Iセッション無事解決



発言の少ない人に問う

- 本当は言いたいのになんか言えない → “よかった!!”
 - 自分の考えをグループに伝えよう!!
- グループへの信頼 深まる

みんなが意見を言えるようになる

<T₁₁>

(B)「発言によって人を傷つける」ことについて議論



Fセッションのはじまり

理論的な考えにみんなが改める様に忠告



Fさんわかろうとしない



せめられる



西●先生の stop 今、答えを出すのではなく、
次回へ期待しよう!!

Fさんにわかってほしいと
いうグループの気持ち

<T₁₂> 休憩のあとのセッション

沈黙

「ねむい」「疲れた」「興味が無い」

グループ全体が落ち込んだムード



(西●)「体を動かそう!!」



Fさんが倒れる



文●先生の熱烈な看護 — 親子の関係

みんなが見守る

暖かいムード



回復

「テーマを決めるか、決めないか」の話し合い

<T₁₃>

Bさんと佐々木さんの会話



Hさんの順位付け騒動



発表しなかった人に理由をきく → Fさん

Fさんの弁明 矛盾



先生の介入「Fさんをせめている」

誤解に気づく



「意見を聞きたいのか、気持ちなのか」

文● VS G

<T₁₄>

Eさんがみんなに自分のイメージを問う



Gさん「他のグループにある感動がこのグループにはない」

みんなが
問題に集中



グループで話し合う



Kさんの馬説で解決——納得

Eさんの話が再開

<T₁₅>

Cセッション

目かくし探険への疑問&話し合い

心で得たものに気付く

目かくし探険の意義



西●先生のCさんへの指摘



Cさん“自己の発見”

感動



目かくし探険の報告



あたたかいムードにもり上がる

<T₁₆>

目かくし探険のわかち合い



Bセッション

自分に対するイメージをみんなに問う



G「“空白”な感じ」

B VS 西●先生

Bさんが自分の態度に気が付く

感動があらたにうまれる



最後にひと言

涙・なみだのものがたり

握手

暖かさ、もり上がり

4 Tグループ合宿直後の学生の反応

- ・満足度 7段階評定で平均6.0
- ・ねらいの達成 7段階評定で平均5.5
- ・個々の学生の反応では、

A：ことばではいえないけど何かを得た。積極的に発言できるようになった。
人の気持ちを考え、意見を聞けるようになった。

B：自分自身と関わられた。
前半嫌な気持ちがあって乗れなかった。

C：自分や皆が避けていたところに触れた。自己開示のきっかけがつかめた。

D：自分のいろいろな面に気づけ、どうしたらよいか納得できた。合宿中に実行できず残念。
人の気持ちに気づけるよう心を配った。

E：気持ちに気づくことを実感した。人の気持ちに気づき、気づこうという姿勢ができた。
一人一人と気持ちの上で深く知れた。

F：私の中で変われるという部分があるから。
大切な感情に気づけた。

G：人間のすばらしさがみえた。
自分のことが大きい。

H：自分をすなおに見つめられた。自分や相手の気持ちに気づけた。
相手の表情に気づけなかった。

I：この合宿で始めて「学んだ」という実感があった。
前から漠然としたことが解決しつつあるから。

J：自分をもっと出したかった。指摘して欲しかった。
他者の気持ちは理解できたが、自分の気持ちをはっきり言えなかった。

K：自分の心を今一つ掴み切れない。
自分の粹を取り除け、気持ちを素直に述べられた。

学生は大きく分けて2つのことに気づき学んだと思われる。1つは、自己理解へのきっかけをつかみ、自分を知ったということであり、2つ目は他者と関わられたこと、他者と関わることにより他者と知り合ったことである。

反面

- ・自分の気持ちが十分につかみきれない（K）思いや、
- ・自分のことには色々気づいたが、それをどう実行できるのかよく分からない（D）
- ・自分や他者の気持ちに気づいても表現できない時があった（H）
- ・気持ちの上ではお互いに知り合えたが、気持ち以外の面ではまだよく知り合っていないような気がする（E）

・Tグループセッションがもう少しあれば、もっと自分のことや他者のことが分かったかもしれない（F）

という不満感も多少感じているようである。

合宿に参加したこと、その中で得たこと、発見したことに満足し自分にとっての意味づけができた人にとっては、非常に有意義であったが、反面十分に達成できなかった心残りもあり、もっと学びたい思いを喚起したところで終了したTグループセッションであったとも言えそうである。

5 ふりかえり用紙から

Tグループセッション終了後毎に記録されていた学生のふりかえり用紙から、自由度・興味・関心・緊張度・あたたかさをグラフ化したものが図1である。

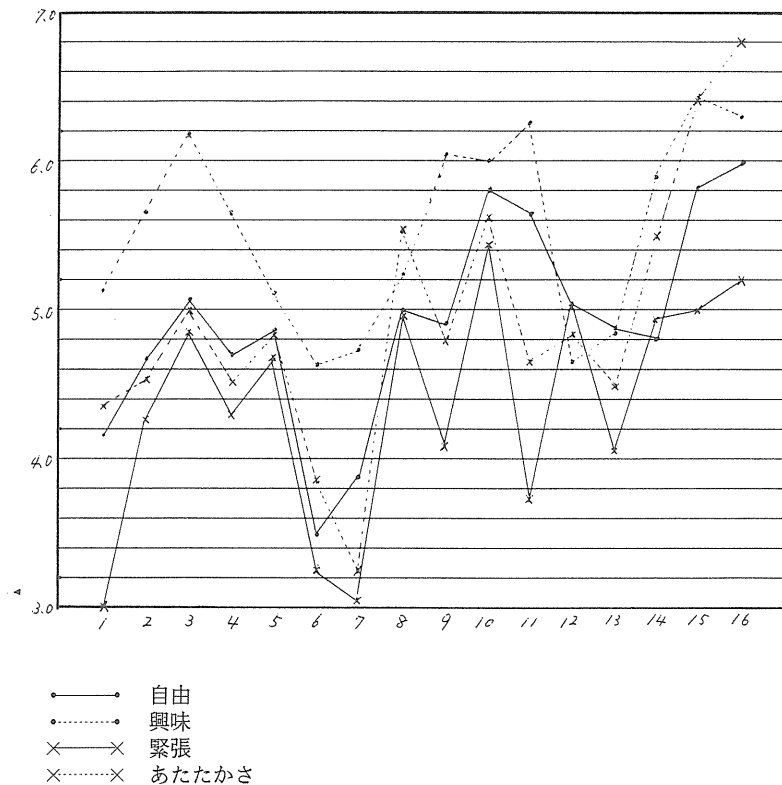


図1 Tグループセッション毎の自由度、関心度、雰囲気

T₃T₁₀T₁₅を中心とする3回の山とT₇T₁₃を中心とする2回の落ちこみがみられている。

図からみると自由度・興味・緊張度の三者はほぼ並行して進んでいくが、暖かさはそれらと若干異なる様相で変化している。特にT₉T₁₁においては緊張の

高まる“対決”の生じていたセッションである。息づまる思いを抱きつつも、その中で感じられるグループの雰囲気はかなり暖かいものであると、メンバーは感じている。このことは、たとえ緊張状態にあったとしても、それまでにつくられてきた信頼を基にして、人格的かかわりが感じられることにより人間的暖かさを感知できることを示しているものだと考えられる。

6 グループに影響を与えた人

学生がグループに影響を与えた人とみなした回数の統計である（表3参照）。

NトレーナーとMトレーナーの評定は含まない。またプラスの影響マイナスの影響の両者があるかと思われるが、その点は考慮していない。

表3 グループに影響を与えた量

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	合計
A		1			1						5	2						9
B																5		5
C				2		1		1	1	3						10		18
D																		0
E											2	2						4
F					1				1			6	4	3				15
G			2			4				1				3	4		1	15
H			2	2		1			6			1		1	1			14
I						3		1	1	3	4		1					13
J			1	2				1	1									5
K		4	5	5		1		2	1	4		2		1				25
Nトレーナー		3	1		9		9		4	6			4	2			3	41
Mトレーナー		4						8	5	2			1					20
先生			1															1
全員		1	1	2							2	2	1		2		2	13

7 メンバー相互の影響関係

集計表よりあるメンバーがあるメンバーに与えた影響の状況をみると表4～14の通りである。

ほとんど影響を与えない人（A・D・E・F・I）ある特定の人に主に影響を与えている人（B→H・C→J・J→K・K→G）ある回に集中して影響を与えている人（AT₁₀・FT₁₁・IT₁₀）相互関係の多い人（C・G・H・J・K）がみられる。

トレーナーからの影響は他のメンバー相互の影響より多い。特に学生にとって見知らぬ人であったNトレーナーからの影響が最も多いといえる。

色々な面で学生集団とは異質なトレーナーは、暗に存在していることだけでも、またわずかの言動によってもメンバーに大きな影響を与えていると言える。

表4 Aがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた 合計	受けた 合計
B											○						×	1	1
C											○					×		1	1
D																		0	0
E			×								○							1	1
F												×						0	1
G			×											×				0	2
H			×								○				×			1	2
I											○ ×							1	1
J			×								○							1	1
K			×												×			0	2
Nトレーナー	×			×		×												0	3
Mトレーナー	×	×																0	2
先生					×													0	1
全員																			

表5 Bがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた 合計	受けた 合計
A											×						○	1	1
C				×						×								0	2
D		×															○	1	1
E								○									○	2	0
F																	○	1	0
G					×										×		○	1	2
H			×		○ ×								○	○ ×		×	○	4	4
I																	○	1	0
J									×								○ ×	1	2
K		×				○ ×				×								1	3
Nトレーナー									×	×		×					×	0	4
Mトレーナー							×						×					0	2
先生		×																0	1
全員																			

表6 Cがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた 合計	受けた 合計
A											×						○	1	1
B				○						○								2	0
D			○	○						○								3	0
E														×		○		1	1
F													○					1	0
G					×	○					×					○	×	2	3
H			○ ×							○		×				○		3	2
I					○						×					○		2	1
J		○		○ ×	○	○		×						×		○		5	3
K			×							×								0	2
Nトレーナー		×	×		×		×	×	×				×		×	×		0	8
Mトレーナー		×						×	×									0	3
先生																			
全員																			

表7 Dがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた計	受けた計
A																		0	0
B		○															×	1	1
C				×	×					×								0	3
E																		0	0
F																		0	0
G			×				○ ×		×									1	3
H					×													0	1
I																		0	0
J											×			×	○			1	2
K						○					×							1	1
Nトレーナー													×					0	1
Mトレーナー		×						×										0	2
先生																			
全員															×			0	1

表8 Eがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた計	受けた計
A				○							×							1	1
B								×									×	0	2
C														○		×		1	1
D																		0	0
F												×						0	1
G																		0	0
H											○			×				1	1
I											×							0	1
J				×	×													0	2
K												○						1	0
Nトレーナー		×	×				×						×				×	0	5
Mトレーナー		×																0	1
先生																			
全員				×														0	1

表9 Fがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた 合計	受けた 合計
A												○						1	0
B																	×	0	1
C													×					0	1
D																		0	0
E												○						1	0
G					×	×									×			0	3
H												○						1	0
I													○					1	0
J												○						1	0
K										×								0	1
Nトレーナー		×	×			×			×			×	×					0	6
Mトレーナー		×											×					0	2
先生																			
全員				×								×						0	2

表10 Gがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた 合計	受けた 合計
A				○										○				2	0
B					○										○			2	0
C					○	×					○					×	○	3	3
D		○				○	×		○									3	1
E																		0	0
F					○	○									○			3	0
H		○	×						×						○	×		2	3
I					○	○				×					○			3	1
J		○																1	0
K		×					×	×		○					×			1	4
Nトレーナー		×				×									×			0	3
Mトレーナー		×												×				0	2
先生																			
全員				×								×						0	2

表11 Hがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた計	受けた計
A				○							×				○			2	1
B				○		○							×	○			×	3	4
C				○						×		○					×	2	3
D						○												1	0
E											×			○				1	1
F												×						0	1
G				○						○						○		3	2
I				○														1	0
J				○				×	○				○	○				4	2
K				×					×									0	2
Nトレーナー	×				×		×									×		0	4
Mトレーナー	×																	0	1
先生																			
全員												×						0	1

表12 Iがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた計	受けた計
A											○							1	1
B																	×	0	1
C						×					○						×	1	2
D																		0	0
E											○							1	0
F													×					0	1
G					×	×					○				×			1	3
H				×														0	1
J																		0	0
K				×	×						○		○					2	2
Nトレーナー	×						×		×						×	×		0	5
Mトレーナー	×	×							×	×	×							0	5
先生																			
全員								×										0	1

表13 Jがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた 合計	受けた 合計
A				○						×								1	1
B									○								○ ×	2	1
C		×		○ ×	×	×		○						○		×		3	5
D											○			○	×			2	1
E				○	○						×							2	1
F												×						0	1
G			×															0	1
H				○ ×				○	×				×	×				2	4
I																		0	0
K		○		×				○ ×		×	○				○			4	3
Nトレーナー		×	×				×			×							×	0	5
Mトレーナー		×																0	1
先生																			
全員																			

表14 Kがメンバーに与えた影響○、受けた影響×

メンバー	T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	与えた 合計	受けた 合計
A				○ ×											○			2	1
B		○					○ ×			○								3	1
C				○						○								2	0
D						×						○						1	1
E												×						0	1
F										○								1	0
G			○				○	○		×					○			4	1
H			○						○									2	0
I				○	○					×			×					2	2
J		×		○			○ ×			○	×				×			3	4
Nトレーナー					×									×				0	2
Mトレーナー			×															0	1
先生																			
全員																			

8 個人面接

Tグループ合宿10ヶ月後に（2年生）1人約1時間程度の個人面接を行ない、

- ・ Tグループとはどういうものかを考えているか。
- ・ 自分のTグループでの体験がどこまで明確になっているか。
- ・ 学内授業との関連。
- ・ Tグループ体験と日常生活との関連。

などについて話し合った。

学生にとってTグループに関しては記憶から除かれていて、個人面接をするといわれそんな経験もしたとやっと思ひ出した3人以外は、何かある毎に思い出したり、自分の身についたと思うということであった。

Tグループとは、プロセスを学ぶものであるし、自分や人の気持ちに気づくところであると考えており、「コミュニティ」の授業（2年次）の中でTグループについて色々説明をうけ、自分なりに意味をつかみ体験の明確化が進んだと伝えていた。

Tグループ合宿後、仲間関係が若干変化し相互に何でも言いあえるきっかけが増え、ある時はあまりにも率直なフィードバックによって相互に傷つき、仲間関係が壊れかけたり、ある時はそのことによって仲間内での信頼が増したともいえる状況であるようであった。

ただTグループ合宿に参加する前、色々なうわさが飛びかいそのことで自分が振り回され、学び損ねたことが多くあったことを指摘している学生が多かった。そのため後輩にあたる1年生へはうわさを助長するようなことは伝えたくない。むしろ体験してみないと分からないことが多いし、1つ1つグループの状況が違うので、前もって余計な先入観となるようなことは伝えたくないと思べていた。

9 レポートより

学生は自分の体験を明確化するために、フォローアップの最後に各自レポート作成している。多くのことを記述している学生も短かい中に色々な思いを込めている学生もみられた。

学生のレポートをみると

Aさん：かなり多くのことを学んだと思う。その1つはグループ内のプロセスである。また沈黙なら沈黙が続いた時に、メンバー各々が自分自身で何かを考え、他のメンバーのことも自然に考えられるようになった。また基礎Ⅱ・Ⅲで習ってきたコミュニケーションの要素のことと関連づけられて分かった。先生方には役割があるが私たちと同じメンバーとして参加してもらえ、Tグループで学習する上で大きな影響・意味

があった。先生方に色々な不安・不満・疑問をぶつけることで、先生と学生というどうしても捨て切れない壁が取り除かれた。何回も問題にぶつかったが、皆で乗り切った。メンバー1人1人が各々成長できたと思う。

Bさん：(T₁から順にどのようなことがあり、その中で自分はどう感じ動いていたかが克明に示されている。)まだ十分学び得なかったものも残っている。Tグループセッションのはじめ、トレーナーの立場への疑問が強く、不満でイライラしていた。トレーナーに意図があるのではと疑り深くなっていた。しかしNトレーナーとKさんのやりとりの中で、それらが消え逆にこのグループにいてよかったと思った。自分自身個人的な悩みがあり、前半はやる気がなかったが、次第にメンバーのやっていることをみて、意欲が出てきた。自分から勇気をもって自己開示して本当によかった。他の人の援助で自分に気づけたこともうれしかったし他の人も他の人の援助で気づきあえることが分かった。他者をより感じられるようになった。

Cさん：T合宿を終えてまず言えることは私自身この合宿ですごく大きなものを得たということです。最初はうわさを聞いて憂うつだった。でも私は日常生活では試みたことのないことをしてみようと、口火を切ったりしてみた。自分から意見を言おうともした。その時気づいたことは、相手の意見をよく聞いていなくてはできない(自分の意見を言えない)ということだった。そのことで、これまで自分のグループでのあり方をすごく感じさせられた。また他の人が苦しんでいるのをみて、「意地をはってるのでは」と言えた時、自分がその人だけでなくグループの雰囲気を変えることもでき、役に立てた喜びで一杯だった。皆が喜んで励ましてくれたこともうれしかった。仲間への信頼を得たこと、そして何よりも「自分」を皆によって発見させてもらえたことが、とても大きな喜びだった。

Dさん：今まで話し合いの場で口火を切ることはめったになく、意見を言うことも少かった。合宿中何度も話し合いがもたれるなら、自分から努力して意見を活発にいおうと思っていた。意見をたくさん言うことが、自分の中にあるものを素直に表現することにつながるとは全然考えていなかった。頭の中で意見をまとめているとその内に話が進んでいたり、言う機会をのがしたりしていた。そんなことよりも自分が感じたまま言えばいいと分かった時には気分がとてもよかった。自分についてフィードバックをもらった時、皆がよく私をみてくれていたことが分かりうれしかったし、グループの一員であることが認識できた。

Eさん：人前で話すことの苦手な私には、見知らぬ人がいること・言うことは大きなプレッシャーだった。先生方が何も言わないので、自分達です

すめていかねばならないということを感じられ不安になった。意見を言わなくてはとも思っても、言えない自分に自己嫌悪を感じていた。始めて自分から発言した時、長い間の束縛から解放されたような感じで、気持ちがスーと楽になった。それから人の意見を聞く余裕ができてきた。自分のなかなか意見を言えない気持ちを皆に聞いてもらった時、自分が精一杯やっていることを認めてくれる人がいてとてもうれしかった。自分が自分の気持ちに気づくようになったら、他のメンバーの気持ちがよく分かるようになっていった。合宿によって私は今までの自分を見つめ直すことができたし、これからの自分の方向もみえてきたような気がする。

Fさん：トレーナーの態度に反感を感じていた。不安も強くなり、嫌気がさしてくる自分を押えることができなかった。トレーナーの態度1つ1つがひっかかり、どうでもいいと投げやりになったりどうしていいかわからなくなったりした。メンバーがトレーナーに色々と言っているのを聞いて、私の中でのわだかまりも消えていった。皆から色々と言われてもどうしたらいいのかわからず混乱し、素直になれなかった。Bさんのことばを聞いて私もこれから自分を積極的に変えていこうと思った。

Gさん：Tグループ合宿は私のコンプレックスの正体を教えてくれたものだった。何かをこの合宿の中で得たいと思っていた私は、あまりにも自分がTグループに無難に参加しているのに不安を感じた。そういう不安や不満はグループの中にあるのではなく、自分の中にあったことに気づき、そのことが自分を解放する糸口になったのです。つまりすべての原因は自分が自分を信用していないことにあることがわかったのです。その不信感が他者依存・他者不信につながっていたのでした。日常にかえってから哲学の授業がとても意味をもって受けられるのにびっくりしたし、他のことでも新しい驚きを感じている。今までの暗やみから目がさめたようだ。

Hさん：合宿はとても嫌だった。でも始まるとけっこう夢中になっていった。次第に自分はどんな気持ちだろう、何考えているのかなと自分で自分に問いかけたり、他の人は今どんな気持ちかな？と考えたりしていた。合宿で自分の気持ち・他の人の気持ちに気づいて大切にできるようになった。自分の気持ちを皆に言い、理解してもらえた喜びを知り、また相手の気持ちを素直に受け入れ、相手を理解したいと思うようになった。深い信頼関係を持てたことがうれしい。

Iさん：最初は不安だった。少しずつ皆の中に入っていった。入院していたAさんに前回のTセッションの説明をしたら、Aさんにもメンバーにも分かってもらえてうれしくなった。そうすると他のメンバーの気持ち

がわかるようになった。

Jさん：(T₁から順にしようと思っていたが結局しなかった、あるいはできなかったことが述べられている)～さんが私と同じ意見だったから言う気になった、という表現が多くみられる。気づいているからできないことが多かった。自分が感じていたことは他のメンバーも感じていて、自分が言わなくてもいいと思って言わないことも多かった。そんなことで何かにひっかかりながらも最後のTセッションが終った。

Kさん：授業の中でグループプロセス・傾聴などを学び得ることは多かった。でも気づいても改められずいつも同じことのくり返しだったので、それをうち破ろうとしたのが今回の合宿だったと思う。

自分は場を何とかしようと言言していたが、そのことが他の人の発言チャンスを奪っていることに気づき、周りに一度目をむけることができるようになってきた。

自分を見つめることは大切なことだが、グループの中にいる自分を忘れてはいけないと思う。

今からの私の課題は、自分からグループにとけこみたい。今のグループの状況・他のメンバーのこと・自分の気持ちを感じとり、グループの中の自分に気づきメンバーの一員としての役割を知ることである。

学生のレポートからみると、うわさに混乱させられ不安に陥った状況でTグループ合宿に参加したが、その中で様々な経験を通して彼らなりに自分のものに、自分なりの意味を発見したようである。

そのようなことができたのは、1つには合宿で何かを得られるのではないかという期待が底にあったこと。2つには今まではできなかったが、合宿ではそういう行動を試みてみようとしている学生がいたこと。3つめにはいろいろなやりとりの中で興味をもち、不安もあるけど一度やってみようと思ひ、やれたことを仲間からも認められ自信をつけていったこと。4つめには自分の気持ちに気づき、表現できるようになると、他の人の気持ちに気づけるようになり、そのことで相互に関わっていこうとする意欲が生じてきたことなどが考えられるのではないかと思われる。

10 考 察

Tグループ合宿参加前、学生達は不安・怖れを感じている。1つはTグループ合宿に関する噂に振り回されていることがあげられる。

今まで経験したことがなく、そのことに関しての情報は少く、あったとしても断片的な情報——例えば、泣く、自分について何か言われる、行けば分かるんだよと言われたこと等——しか与えられていない。学生達はそのようなわずかの情報をこれまでの自己の体験と関連させ、想像し、その上に合宿そのもの

に対する不安をからめあわせていく、またさらに学生間でそれらの不安を互いに強めあっている状況である。

また、必須課目であること、つまり参加しなければ単位がもらえないということも権威に反発しやすい青年にとって意欲を減退させる要因の1つであるかもしれない。(このことは後年検討され、合宿の選択制へ変更されている。山口1985)

このように、不安・怖れ・反発などが内在化された状況で学生はTグループ合宿に参加してくる。

しかし、反面、この合宿で何か見つけられるのではないか、新しい友人が作れるのではないか、自己発見ができるのではないか、友人の別の面を見つけ、もっと関わりが深められるのではないかという期待ももち合わせている。

そしてTグループセッションが開始される。今まで経験したこともない重くて大きい体験の場に入っていく。

前経験が無いことはそれだけ不安を掻き立て、対処する術を見出せない混乱した状況が生じてくる。

その中で約18年間の成長過程の中でとってきた対人関係能力、問題解決法などをTグループ場面にもってくることによって様々なことを試みたり、防衛反応を生起させたりしはじめる。

沈黙を破って口火を切る。自分の意見を述べてみるなど、自分から話をすることや、日常あまり行ったことのない自分の試みがTグループの中で成功したり、他のメンバーに受け容れられたり、自分にも出来たという喜びの体験が少しづつもてるようになってくると、自己理解も進展し始め、そのみならず、他者を理解しようとする意欲も生まれ、相互の関わりが出来始める。相互に影響しあっている関係が実感として得られてくると、グループの状況にも目が向き、そこへ自分なりの方法で介入し、リーダーシップがとれるようになってくる。

同時にそのような関わりをとることにより、自己受容・自己信頼感が増し、他者依存の関係から対等の関係へ他者信頼感の確立ができるようになってくる。

Tグループセッションのメンバーは、同年齢・同性で構成されているクラスメイトである。よく知っている人もいる、名前は聞いているが顔は知らない人、顔は知っているが名前が分からない人、顔も名前も今まで知らなかった人がいっしょになりセッションが始まる。なんとなく知っているという状況は対人不安を最大にし、自分をどの位置に位置づけたらいいのか困惑しやすい状態である。

そこに2人の異質な人間——トレーナー——がいる。学生にとってこの場が気詰りなもの、不安なもの、なんとも出来ないものこの2人がいるからだと感じるようである。2人は一体誰なのか、何をしようとしているのか、意図がわからない。2人に依存したいが依存もかなわない。反発心も生まれてくる。不安も強まる。

まず最も気になっていることから対処しようということで、トレーナーに対して色々なこと——質問・攻撃・不満の表明等——がでてくる。学生にとっては日常生活で他人に対してそのような感情を感じても表現することのない関わりである。

思い切って表出し、そのことが正面から受けとめられた時、自分の気持に気づくこと、卒直であること、否定感情を表現しても関係が壊れることがないこと、むしろ表現することによって相互の関わりが変化し深まることが実感として体験できる。

直接関わったメンバーだけでなく、共にその場を共有している他のメンバーにとっても不安が解消され自分が自由になることを実感できる。

合宿前までもっていた不安はかなり消失し、この場で何か学んでみようという意欲も生じてくる。

トレーナーとしては最も緊張しエネルギーを要する時である。

青年にとって親や権威に対する反抗が自己変革・自己成長に必須のものであると考えられる。壁にぶつかり壁を乗り越えた時に、新しい自分が発見できる。これらのことを学生が正面から取り組めるよう援助することが、トレーナーの役割ではないかと考えられる。

様々なやりとりを通してメンバー1人1人の動き、考え方、気持がみえてくる。中途半端にしか位置づけられなかった『自分』がどのような人間で、どのように行動しているのか、行動したらいいのかみえてくる。そしてまた、他のメンバーに自分はどのように見られているのか、受け容れられているのか気になってくる。日常では気になっても忙しさや他の雑事にまぎれてうやむやになってしまうことも、Tグループの中では気になったことは明確にできるチャンスがふんだんに与えられている。自発的に『自分について』他のメンバーにきいてみるのが可能であり、そのことによって自分が別の面から新たに発見でき、他者の目を怖れる必要も無くなってくる。

このような観点からすると、現代の若者のなれあい主義・対人関係の希薄さ、そこから生じる自己不全感を少しでも克服でき、自己確立の機会を与えられることが、学生にとってTグループを実施することの大きな意味ではないだろうか。

他者と関わることの悩み苦しみと喜び、そこから見出せる自己の在り様、人を信頼することの大切さを体験を通して感じてゆけることは、これから大人へ成長・発達してゆく学生にとって大きな力となっていくのではないだろうか。

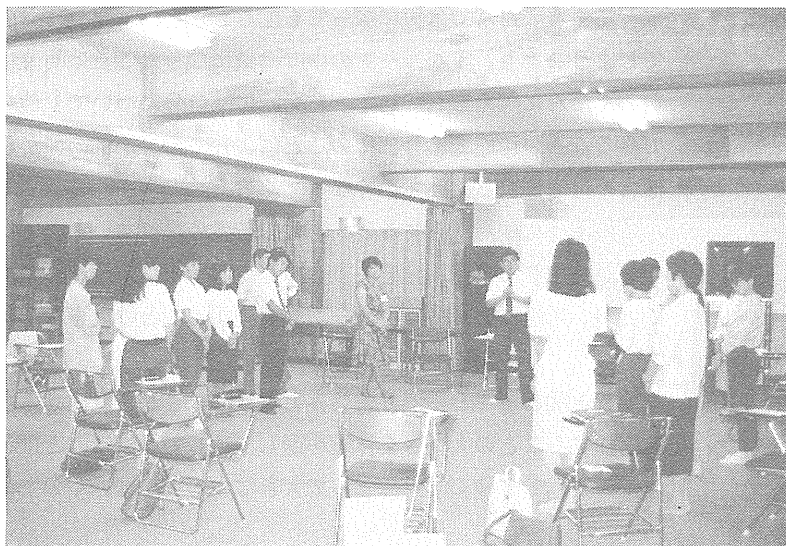
この原稿を書くにあたり、経験の浅かった筆者にとって、自己への気づき、自己成長の機会を学生から与えられただけではなく、学生と関わった喜びをも十分に感じさせてもらった。5泊6日のTグループ合宿で共に関わりあったメンバーとNトレーナーに感謝の意を表したい。

参 考 文 献

- 乾 彰夫：1986 自立に向かう旅 大月書店
井原哲夫：1989 「豊かさ」人間の時代 講談社
笠原嘉・山田和夫：1981 キャンパス症状群 弘文堂
笠原 嘉：1984 アパシー・シンドローム 岩波書店
木下 清：1989 結婚モラトリアム 創元社
福井康之：1980 青年期の不安と成長 有斐閣
フロム, E.: 1951 自由からの逃走 みすず書房
藤竹堯編：1989 若者はいま、現代のエスプリNo.265 至文堂
松下美知子：1981 女子青年自分らしさの追求 大日本図書
森 清：1979 怒らぬ若者たち 講談社
山口真人：1985 教育の実践—人間関係総合実習（合宿） 人間関係2・3号合併号
南山短大人間関係研究センター

注

本稿の発表に関しては、メンバー全員の了解をとった。



付表

ふりかえり用紙

グループ _____ T _____ 回 氏名 _____

I いまのセッションで

私は 全く不自由であった	<input type="text"/>	非常に自由であった
全く興味を持たなかった	<input type="text"/>	非常に興味をもった
グループの雰囲気は 緊張した	<input type="text"/>	くつろいだ
つめたい	<input type="text"/>	暖かい

II 今のセッションでは、どのようなことがありましたか。

III 今のグループプロセス（コミュニケーション、感情の取扱い、雰囲気、メンバーシップ、規範など）はどのようなものでしたか。そして、その中での私の行動は……

IV 今のセッションで私が最も影響を受けたのは（肯定的・否定的）

誰の
どのような行動がどのような影響を……

V 今のセッションでグループに影響を与えたのは（自分を含めて肯定的にも否定的にも）

誰の
どのような行動がどのような影響を……

VI 次のセッションであなたが試みたいと思っていることは……